

3 こころのこもった景観づくり

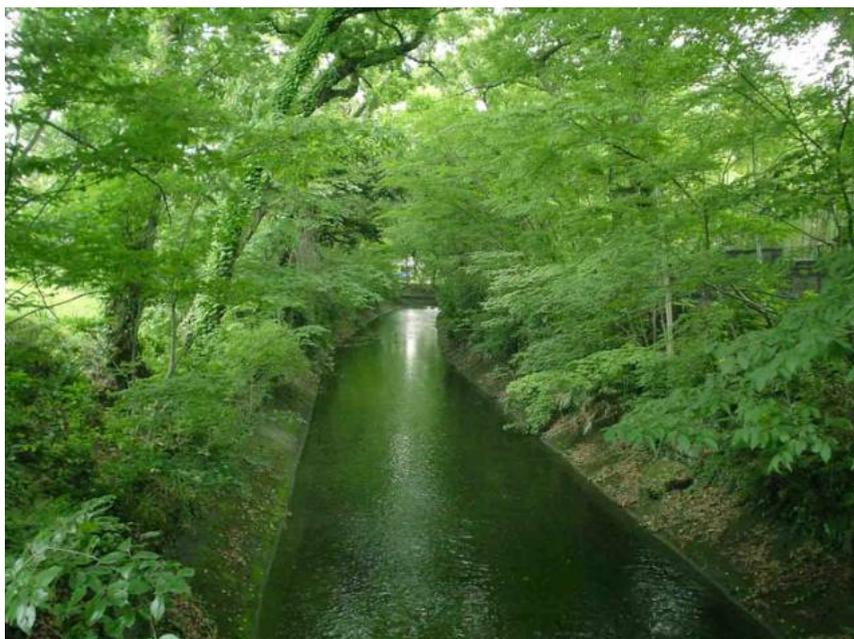
(1)「こころのこもった景観づくり」とは？

玉川上水は多くの市民に人気のあるスポットであり、福生市の特徴の1つです。美しい川面には四季折々の武蔵野の面影が映り、風情豊かな景観を楽しませてくれます。この玉川上水は、江戸市民の飲料水を確保するために、多くの労働力と高度な知恵と技術を結集させ、大変な努力によって完成したものです。先人たちの苦勞の歴史が詰まっており、私たちはそのこころを伝えていかなければいけません。

かつての私たちの生活には、水を汚さないこころ、川下に配慮するこころが当然のものとしてありました。しかし、近頃はそれが薄れてきています。私たちの生活の一部が形となって表れたものであるまちの景観も、それと同じことが言えます。一度歩みを止め、本当に必要なものは何なのかを見つめ直す時期に来ているのではないのでしょうか。

心地よい景観とは、きびしい規制により住みにくくすることで生まれるのではなく、お互いを思いやること、互いに関心を持ち合うことにより、その結果としてゆるやかな統一感があることだと考えます。それには、きちんとした話し合いを重ね、お互いを理解することが重要です。

魅力のある福生を残しつつ、更に磨きをかけ、新たな魅力を創出し、育てていく景観づくりを行っていきます。市民みんなで考え、実現に向けて話し合いを継続し、「こころのこもった景観づくり」を進めます。



(2)「福生人」づくり

美しい景観づくりが最終目標ではなく、良いまちをつくるための1つの手段として、景観づくりが必要なのだと考えます。福生市が良いまちになるには、「福生人」(ふっさじん・Fussa Lovers)が増えなくてはなりません。

「福生人」とは、福生をよくわかり、福生を愛するところや情熱を持っている人のことです。「福生人」は、次の“3つのところ”と“3つのところがまえ”を持っている人のことです。

「福生人」 (ふっさじん・Fussa Lovers)



【福生人の3つのところ】

- ①人の気持ちの大切さがわかるころ
- ②生き物の大切さがわかるころ
- ③地球の大切さがわかるころ

【福生人の3つのところがまえ】

- ①目先の利益だけを考えない
- ②ゆずりあいの気持ちを持っている
- ③おだやかに話し合えることができる

これからは、たくさんの「福生人」による行動が必要です。たくさんの人に、福生を愛するようになってもらいたいと思います。

そのため「福生人」は、福生市内外に「福生人」を増やしていくことをめざし、自ら行動します。次世代の「福生人」を育てる取り組みや、これまで無関心だった人たちを「福生人」にしていく取り組みを実践します。「福生人」が増え、「福生人のところ」が徐々に広がっていくことにより、その結果として福生市がこれまでよりも良いまちになると考えます。

(3)協働と役割分担

景観づくりの取り組みは、行政だけの努力で実現するものではありません。市民・事業者・行政が共通の目標を持ち、目標に向かって力をあわせていくことが必要です。

これからは、市民も事業者も行政も「福生人」をめざし、ともに手を携えて、適切な役割分担のもと「こころのこもった景観づくり」を行っていきます。

市民の役割

- ・まちの景観を気にかける
- ・自分たちの住むまちの景観をどのようにしたいか、地域で話し合う
- ・地域で決めたルールに沿ってまちづくり、景観づくりを行う

事業者の役割

- ・地域の一員として、市民・行政とともに話し合う
- ・地域で決めたルールに沿ってまちづくり、景観づくりを行う
- ・地域の一員として、率先して地域や社会に貢献する

行政の役割

- ・地域ごとに景観づくりが動き出すための“きっかけ”をつくる
- ・市民・事業者とともに考え、必要な支援をする
- ・長期的視野に立った計画・立案・実施のための法整備をする

